

●医師が記入した「登園許可書」が必要な感染症

保育所における感染症対策ガイドライン(2018年改訂版)に準ずる

| 病名                  | 主な症状・特徴   | 潜伏期間    | 登園の目安                           |
|---------------------|---|---------|---------------------------------|
| インフルエンザ             | 突然高熱が3～4日間続く。全身倦怠感、関節痛、筋肉痛、頭痛、咽頭痛、鼻汁、咳など。   | 1～4日    | 発症した後5日経過し、かつ解熱した後3日経過していること。   |
| 咽頭結膜熱(プール熱)         | アデノウイルスによる感染症。高熱、扁桃腺炎、結膜炎などの症状がある。  | 2～14日   | 発熱、充血などの主な症状が消失した後2日を経過していること。  |
| 流行性角結膜炎(はやり目)       | アデノウイルスによる感染症。目が充血し目やにが出る。幼児の場合、目に膜が張ることもある。  | 2～14日   | 結膜炎の症状が消失していること。                |
| 溶連菌感染症              | 扁桃炎、伝染性膿痂疹(とびひ)、中耳炎、肺炎、化膿性関節炎、骨髄炎、髄膜炎などの様々な症状。扁桃炎の症状としては、発熱やのどの痛み・腫れ、化膿、リンパ節炎が生じる。舌が毎状に赤く腫れ、全身に鮮紅色の発疹が出る。発疹が治まった後、指の皮がむけることがある。 | 2～5日    | 抗菌薬の内服後24～48時間が経過していること。        |
| 手足口病                | 口腔粘膜と手足の末端に水疱性発疹が出る。また、発熱とどの痛みを伴う水疱(水ぶくれ)が口腔内に出来、唾液が増え、手足の末端、おしりなどに水疱(水ぶくれ)が生じる。  | 3～6日    | 発熱や口腔内の水疱・潰瘍の影響がなく、普段の食事が摂れること。 |
| ウイルス性胃腸炎(ノロウイルス感染症) | 流行性嘔吐下痢症の原因となる感染症。主な症状は嘔吐と下痢、脱水を合併することがある。  | 12～48時間 | 嘔吐・下痢の症状が治まり、普段の食事が摂れること。       |
| ウイルス性胃腸炎(ロタウイルス感染症) | 流行性嘔吐下痢症の原因となる感染症。主な症状は嘔吐と下痢であり、しばしば白色便となる。脱水やけいれんなどにより入院を要することもある。5歳までの間にほぼ全ての子どもが感染する。  | 1～3日    | 嘔吐・下痢の症状が治まり、普段の食事が摂れること。       |
| ヘルパンギーナ             | 初期には、発熱、のどの痛み等。咽頭に赤い粘膜炎が見られ、次に水疱(水ぶくれ)となり、まもなく潰瘍となる。高熱は数日続く。  | 3～6日    | 発熱や口腔内の水疱・潰瘍の影響がなく、普段の食事が摂れること。 |
| 突発性発疹               | 生後6か月～2歳によく見られる。3日程度の高熱の後、解熱するとともに紅斑が出現し、数日で消えてなくなる。  | 9～10日   | 解熱し機嫌が良く全身状態が良いこと。              |

上記以外、麻疹(はしか)、流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)、風疹、水痘(水ぼうそう)、百日咳、結核、侵襲性髄膜炎菌感染症(髄膜炎菌性髄膜炎)、腸管出血性大腸菌感染症(O157・O26・O111など)、急性出血性結膜炎、マイコプラズマ肺炎、伝染性紅斑(りんご病)、RSウイルス感染症、帯状疱疹、なども「登園許可書」が必要になります。

●登園許可書は必要ではないが、注意が必要な感染症

|             |   |                      |  |
|-------------|---|----------------------|--|
| アタマジラミ症     | 卵は頭髮の根元近くにあり、毛に固く付着して白く見える。フケのようにも見えるが、卵の場合は指でつまんでも容易には動かない。            | 10～30日<br>卵は約7日で孵化する | 駆除を開始していること。                                       |
| 伝染性軟属腫(水いぼ) | 1～5mm程度の常色～白～淡紅色の丘しん、小結節(しこり)であり、表面はつやがあって、一見水ぶくれにも見える。大きなものでは中心が凹んでいる。 | 2～7週                 | 伝染性軟属腫(水いぼ)を衣類や包帯、耐水性ばんそうこうなどで覆っているなど、感染対策が出来ていること |
| 伝染性膿痂疹(とびひ) | 水疱(水ぶくれ)やびらん、痂皮(かさぶた)が、鼻周囲、体幹、四肢などの全身に見られる。                             | 2～10日<br>(長期の場合もある)  | 病変部を外用药で処置し、浸出液がしみ出ないようにガーゼなどで覆っていること。             |

※上記の感染症以外でも、37.5℃以上の発熱や嘔吐・下痢症状などある場合は、お知らせください。必要な場合は病院受診をお勧めする場合があります。